2021年9月19日（日）主日朝礼拝説教

『まだ多すぎる』井上隆晶牧師
士師記6章11～16節、7章2～7節

❶【主はあなたと共におられます】
今日は先週に引き続き士師記の中からのお話をします。6章1節に「**イスラエルの人々は、主の目に悪とされることを行った。主は彼らを七年間、ミディアン人の手に渡された。**」とあります。イスラエルの人々は神様から離れて悪を行ったので、神様は遊牧民であるミディアン人を用いてイスラエルの民を苦しめたというのです。ここに彼らの歴史観が現れています。戦争や飢饉や疫病が起こった時、昔の人々はそれをすべて神と結びつけて考えました。現代人はそんなことはしません。ニュースを聞いても「神は私たちが罪を犯したので～災いを下された」などとは伝えません。現代人はこの世から神を追い出しました。神抜きでこの世は動いており、この世を支配しているのは神ではなく人間だと思っています。しかし聖書の見方は違います。神がこの世を支配しており、悪人は必ず神によって罰せられるといいます。神のない生活に神を入れてゆくのが信仰者の生活であり、神のない世界に神の支配を見ていくのが信仰者の目です。それは訓練です。

さて、人々が神に助けを求めて祈ると、神様はギデオンという人を選んでイスラエルを救います。ギデオンはミディアン人に奪われないように、酒ぶねの中で小麦を打っていました。「酒ぶね」とはワインを作るための大きな流し場です。イスラエルで発掘された古代の「酒ぶね」の写真を見ると、縦横３ｍ、深さが１ｍ以上あります。英語では「ワインプレス」とも訳されますが、ここにブドウをいれて、足で踏んで汁を集めワインを作りました。小麦は叩いて殻を飛ばすので、麦打ちは風が通る広い所でしたのですが、ギデオンは見つからないように酒ぶねに隠れて小麦を打っていたのです。だから彼は小心者（臆病）だったということが分かります。そんな彼に天使が現れて「**勇者よ、主はあなたと共におられます。**」（6：12）と言います。ギデオンは天使にいいます。主が共におられるのなら、どうしてこのような災いが起こるのでしょうか。神様は私たちを見放されたとしか思えません。問題が起こったり、苦しいことがあると人間は神に見捨てられたのではないかと思ってしまいます。でもそれは違います。イエス様が共にいても舟は嵐に遭いましたし、神が共にいても洗礼者ヨハネは首を切られ、弟子たちは殉教しました。目の前の状況から神が共にいるかどうかを判断してはなりません。聖書の中にある神の約束の言葉から判断しなければなりません。
天使は言います。「**あなたの力をもって行くがよい。あなたはイスラエルをミディアン人の手から救い出すことができる。わたしがあなたを遣わすのではないか。**」（6：14）しかしギデオンはいいます。「私の一族はマナセ族の中でも最も貧弱なものです。それに私は家族の中で一番年下です。」すると天使は「**私があなたと共**

にいるから、あなたはミディアン人をあたかも一人の人を倒すように打ち倒すことが出来る。」（6：16）といいます。ここに勝利の秘訣が書かれています。あなたがどうであるかということは一切関係ないということです。頭がいいかどうか、健康かどうか、強いかどうか一切関係ないのです。、小心者でも神があなたと共にいるなら勝てるというのです。逆に神が共にいなければどんなに賢くて勇敢でも勝てないのです。「**勇者よ、主はあなたと共におられます。**」これはギデオンだけに言われた言葉ではありません。あなたにも言われています。神はあなたを用いて、あなたを遣わして人を救われます。信仰とはどこまでも「**主はあなたと共におられます**」という神の約束の言葉を信頼して生きることです。
今のクリスチャンたちは、キリストが自分の中に住んでおられる、自分はキリストの体であるという自覚が弱いのです。なぜならサクラメントがないからです。いつも自分の行いで判断しようとしています。でもこれは自分に頼ることですからいつもグラグラするのです。でもサクラメントは違います。一方的な神の業です。私は聖餐をいただいた後、キリストが私と共におられるという確信が出てきます。「**確信に基づいていないことは、すべて罪なのです。**」（ローマ 14：23）とあります。「**愛には恐れがない。完全な愛は恐れを締め出します。**」（Ⅰヨハネ 4：18）「**神はおくびょうの霊ではなく、力と愛と思慮分別の霊を私たちに下さったのです。**」（Ⅱテモテ 1：6～7）とも言われています。確信が来るまでは祈らなければなりません。祈っていると聖霊が満ちてきて、神は私と共にいてくださるという確信が出てきます。確信が出れば恐れはなくなります。そうすれば私たちは勇者になれるのです。

❷【まだ多すぎる】
この後「**主の霊がギデオンを覆う**」（6：34）と、多くの人が集まってきます。ギデオンは海辺の砂のように数え切れないミディアン人、アマレク人、東方の諸民族の連合軍と戦うために荒野に出ていきます。しかし神様はギデオンにいいます。「**あなたの率いる民は多すぎるので、ミディアン人をその手に渡すわけにはいかない。渡せば…心がおごり、自分の手で救いを勝ち取ったと言うであろう。**」（7：2）こうして恐れる者 2 万 2000 人が帰され、3 万 2000 人いた兵は 1 万に減らされました。更に主はギデオンに「**民はまだ多すぎる**」と言われ、膝をついて犬のように水を飲む者 9700 人が帰され、わずか 300 人だけが残されました。
減るということは心細いものです。反対に増えるということは何となく頼もしく感じるものです。だから私たちはいつも神様に増えることを願います。もし神様が私たちに減らすことを求められたらどうでしょうか。金持ちの青年は、イエス様から財産を手放すように命じられた時、顔を曇らせて去っていきました。「先生、永遠の命を得るには」と言って来た彼は、まさに増えることを求めたのです。その彼に向かって「減らす」ことを求められた主は、ついてゆくことの出来ない方だったのです。

●私も教会員の数が減る、礼拝出席者が減ることを恐れることがあります。信徒

が減れば献金も減り財政が苦しくなります。今、宗教法人を取得しようと府庁に通っています。彼らが見るのはすべて数字です。40 人信者がいなければ認めませんし、経営状況が黒字でなければ認めません。だから質問されると冷や冷やします。「何とかなります」とか「主が必ず与えて下さいます」と答えても、「そんな確証もない、いい加減な答えではだめだ」といわれます。この世とはそういうものです。すべて数字であり、計算です。でも実際にこの教会は二人～三人から始まり、今日に至るまで生活で困ったことは一度もありませんでしたし、必要なものは必ず与えられました。特に貧しかった時こそ奇跡が現れました。またカルトの説得でも、自分の無力さを思い知らされた時に聖霊は働き、悪霊を追い払って相手を変えて下さいました。32 年の間、不思議なことに神様は定期的に 10 名単位で信徒を減らされているように思うのです。

私たちは徹底的に神の約束のみに頼る、という戦いをさせられているのが分かります。私たちが強いと神は働くことができません。そのためにあえて弱くされる、少なくされるということがあるのです。私たちは信仰が試されているのです。お前は神を頼って生きているか、人を頼って生きているかと試されているのです。

●辛坊治郎さんがたった一人で、ヨットで太平洋を横断し戻ってきました。4 月に大阪を出発し、6 月に米サンディエゴに到着し、8 月 24 日に帰国しました。何度も嵐に遭い、死ぬような目に遭ったそうです。「とにかく何を食ってもうまいんですよ、コンビニスイーツから、そこらへんで売っている 3 パック 90 円の納豆から、何を食ってもうまいんですよ」「何でも感動するようになった。水 1 杯でも感動しますよ」「幸せになる方法はね、基本的にすべてにおいて飢餓状態になることですよ。」と語っていました。

「幸せになる方法はね、基本的にすべてにおいて飢餓状態になること」という言葉は重いものです。人は試練が無いと駄目になると思いました。貧しく、無力になることによって信仰が育ち、神を体験するのです。

最後にいいます。自分を信じてはいけません。自分の中におられるキリストを信じるのです。自分を誇らずキリストを誇るのです。自分がしたことを数えず、キリストがして下さったことを数えるのです。「**ある者は戦車を誇り、ある者は馬を誇る。しかしわれらは、われらの神、主の御名を誇る。**」（詩編 20：8・口語訳）

「**あなたがたの内におられる方は、世にいる者よりも強いからです**」（Ⅰヨハネ 4：4）と使徒ヨハネが言った通り、私たちの中に住まわれる方はこの世のいかなる者より強いのです。この方と聖霊が皆さんを必ず復活させます。たとえ罪を犯しても、キリストの愛を信じるのです。自分の小ささを嘆いてはいけません。弱いことを悲しんではなりません。あなたの中に天の王であるキリストがおられるのです。あなたはいかなる王の宮殿よりも輝かしいものとなったのです。この方はあなたを愛し、一体となられました。必ず私たちを守り、ご自分に似た者に変え、天に連れて行かれるでしょう。